
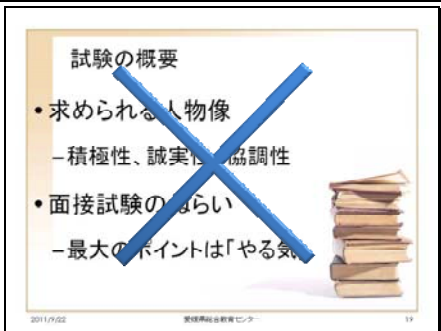



ス ラ イ ド 1	<div>プレゼンテーション教材作成の 基本的な考え方</div> <div>愛媛県総合教育センター 教育開発部 情報教育室</div>	<div>本日は、「プレゼンテーション教材作成の基本的な考え方」について研修します。</div> <div>●</div>
ス ラ イ ド 2	<div>デジタルコンテンツの種類</div> <div><div>デジタル素材</div><div>・写真や動画、音楽データ等</div></div> <div><div>Web教材</div><div>・ブラウザで利用できる教材</div></div> <div><div>学習用ソフトウェア</div><div>・開発された、市販の教材</div></div> <div><div>プレゼンテーション教材</div><div>・プレゼンテーションソフトで作成</div></div>	<div>デジタルコンテンツとは、パソコンで活用できるようデジタル化された写真や教材のことを言います。</div> <div>代表的なものに「デジタル素材」「Web教材」「学習用ソフトウェア」「プレゼンテーション教材」があります。</div> <div>デジタル素材とは、写真や動画、音楽データのことです。</div> <div>Web教材とは、インターネットエクスプローラーなどのブラウザで利用できる教材のことです。</div> <div>学習用ソフトウェアとは、業者によって開発された、市販の教材のことです。</div> <div>そして、プレゼンテーション教材とは、パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトで作成した教材のことです。</div> <div>●</div>
ス ラ イ ド 3	<div>スライド作成の留意点</div> <div><div>① スライドの種類を明確にする。</div><div>② 「読ませる」より「見せる」スライドを作成する。</div><div>③ 文字のサイズ、色、フォントに注意する。</div><div>④ アニメーションは効果的に設定する。</div></div>	<div>パワーポイントなどのプレゼンテーションソフトによるスライド作成をする時は、留意点として四つのポイントがあります。</div> <div>1点目、スライドの種類を明確にする。</div> <div>2点目、「読ませる」より「見せる」スライドを作成する。</div> <div>3点目、文字のサイズ、色、フォントに注意する。</div> <div>4点目、アニメーションは効果的に設定する。</div> <div>各留意点について、説明します。</div> <div>●</div>

ス ラ イ ド 4	<p>① スライドの種類を明確にする</p> <div data-bbox="240 232 639 443"> <div>配 布 用</div> <div>・ 読ませるスライド</div> <div>研究発表用</div> <div>・ 項目を示し、話して伝えるスライド</div> <div>教 材 用</div> <div>・ 理解させたり考えさせたりするスライド</div> </div>	<p>1点目の留意点、スライドの種類を明確にする。</p> <p>スライドを使用する目的によって、作成する考えた方は違います。</p> <p>配布用なのか、研究発表用なのか、教材用なのか、目的に応じてスライドの種類をはっきり区別して作成する必要があります。</p> <p>広告や宣伝等の配布用スライドは、読ませるスライドです。口頭による説明はできませんので、見ただけで分かるように詳細な説明の記述が必要です。</p> <p>研究発表用スライドは、項目を示し、話して伝えるためのスライドです。スライドには、重要なキーワードや図、表だけを表示し、詳細な説明は口頭によって行います。スライドよりも話す内容の方が重要です。スライドは補助資料として、瞬間的にポイントが分かるようなスライド作成を心掛けます。</p> <p>授業で使用する教材用スライドは、児童(生徒)に理解させたり考えさせたりするためのスライドです。研究発表のように、話し手が一方的に説明するためのものではありません。研究発表用に比べて、よりシンプルに作成し、児童(生徒)が頭を使って考えることによって理解を促すスライドが好ましいです。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 5	<p>② 「読ませる」より「見せる」スライド</p> <div data-bbox="240 1272 639 1496"> <div>フレーズ化</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 箇条書き ・ 体言止め ・ 長さや表現の統一 ・ キーワードの活用 </div>	<p>次に、2点目の留意点、読ませるより見せるスライドです。</p> <p>フレーズ化することが大切です。</p> <p>フレーズ化をするためのポイントは、箇条書き、体言止め、長さや表現の統一、キーワードの活用です。</p> <p>話したい内容を全て記述したスライドはいけません。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 6	<div data-bbox="240 1570 639 1877"> <div>フレーズ化の例</div> <p>フレーズ化をすると、視覚的に理解することができやすく、伝えたい内容を整理しやすい場合が多い。</p> <div>↓</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ フレーズ化の効果 <ul style="list-style-type: none"> - 視覚的な理解 - 内容の整理 </div>	<p>フレーズ化の例です。</p> <p>次のようなフレーズ化の効果について説明したい時に、このように文章を表示させて、「フレーズ化をすると、視覚的に理解することができやすく、伝えたい内容を整理しやすい場合が多い。」とそのまま読むよりも、</p> <p>●重要なキーワードだけを示し、「フレーズ化の効果には次の二つがあります。それは、視覚的に理解することができやすいことと、伝えたい内容を整理しやすい場合が多いことです。」と、言葉で説明を加えた方が、ポイントは伝わりやすいです。</p> <p>●</p>

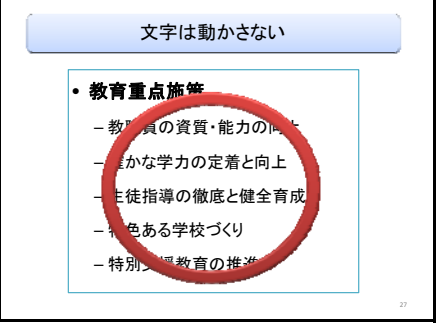
ス ラ イ ド 7	<p>② 「読ませる」より「見せる」スライド</p> <p>図解化</p> <p><チャンキング> 関連のある情報を枠で囲んで、一つのまとまりとして表現する。</p> <p><STEP BY STEP> チャンキングしたものを流れに沿って表示する。</p>	<p>さらに、フレーズ化した内容を図解化をすると、視覚的にインパクトを与えることができます。</p> <p>チャンキングとSTEP BY STEPという方法を紹介します。</p> <p>チャンキングとは、関連のある情報を枠で囲んで、一つのまとまりとして表現する方法です。</p> <p>STEP BY STEPとは、チャンキングしたものを流れに沿って表示する方法です。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 8	<p>図解化の例</p> <div> <div> <p>● イメージを固める</p> <ul style="list-style-type: none"> - 盛り込む内容を決める - ラフな絵で構図を </div> <div> <p>イメージを固める</p> <ul style="list-style-type: none"> ・盛り込む内容を決める ・ラフな絵で構図を </div> </div> <div> <div> <p>● 原図を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> - イラストやデータの収集 - 素材の作成・編集 </div> <div> <p>原図を作る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・イラストやデータの収集 ・素材の作成・編集 </div> </div> <div> <div> <p>● 仕上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> - 素材を貼付、サイズ調整 - 配置の統一性を図る </div> <div> <p>仕上げる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・素材を貼付し調整 ・配置の統一性を図る </div> </div> <p>STEP BY STEP</p>	<p>図解化の例です。</p> <p>これは、図解化の手順をフレーズ化して表したものです。</p> <p>図解化には、イメージを固める、原図を作る、仕上げるという三つのまとまった作業があります。</p> <p>●それらを枠で囲み、図として表したものがチャンキングです。</p> <p>さらに、この三つのまとまりは、順番に行われる作業内容です。</p> <p>●そこで、矢印などを加え、●●順序立てて表示させる方法のことをSTEP BY STEPといいます。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 9	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>文字サイズ、色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字サイズ、色 (20) ・ 文字サイズ、色 (24) ・ 文字サイズ、色 (32) ・ 文字サイズ、色 (36) ・ 文字サイズ、色 (40) ・ 文字サイズ、色 (44) ・ 文字サイズ、色 (48) 	<p>次に、三つ目の留意点、文字サイズ、色、フォントに注意です。</p> <p>文字は、見えること、読めることが大前提です。</p> <p>●</p> <p>文字サイズに気を付けてください。</p> <p>カッコ内の数値は、文字サイズを表しています。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 10	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>文字サイズ、色</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 文字サイズ、色 (20) ・ 文字サイズ、色 (24) ・ 文字サイズ、色 (32) ・ 文字サイズ、色 (36) ・ 文字サイズ、色 (40) ・ 文字サイズ、色 (44) ・ 文字サイズ、色 (48) 	<p>基本的には、32ポイント以上で作成すれば、ほとんどの場所で見えることができると思います。</p> <p>「32ポイント以上で作成する」ということを覚えておいてください。</p> <p>●</p>

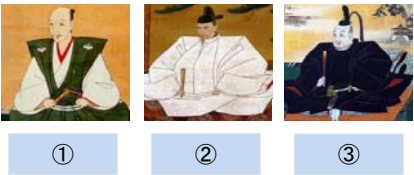
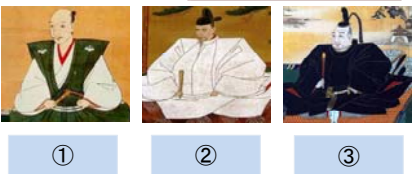
ス ラ イ ド 11	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>文字サイズ、色</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字サイズ、色 (20) • 文字サイズ、色 (24) • 文字サイズ、色 (32) • 文字サイズ、色 (36) • 文字サイズ、色 (40) • 文字サイズ、色 (44) • 文字サイズ、色 (48) 	<p>可能な限り大きく表示させた方がよいです。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 12	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>文字サイズ、色</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字サイズ、色 (20) • 文字サイズ、色 (24) • 文字サイズ、色 (32) • 文字サイズ、色 (36) • 文字サイズ、色 (40) • 文字サイズ、色 (44) • 文字サイズ、色 (48) <p>×</p>	<p>色については、背景色と文字の色とのコントラストが重要です。</p> <p>明るい背景に明るい文字は見えにくいです。</p> <p>背景色を変えてみます。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 13	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>文字サイズ、色</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字サイズ、色 (20) • 文字サイズ、色 (24) • 文字サイズ、色 (32) • 文字サイズ、色 (36) • 文字サイズ、色 (40) • 文字サイズ、色 (44) • 文字サイズ、色 (48) <p>○</p>	<p>暗い背景に対して明るい文字は見えやすいです。</p> <p>文字の色を変えてみます。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 14	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>文字サイズ、色</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字サイズ、色 (20) • 文字サイズ、色 (24) • 文字サイズ、色 (32) • 文字サイズ、色 (36) • 文字サイズ、色 (40) • 文字サイズ、色 (44) • 文字サイズ、色 (48) <p>×</p>	<p>暗い背景に暗い文字は見えにくいです。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 15	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>文字サイズ、色</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字サイズ、色 (20) • 文字サイズ、色 (24) • 文字サイズ、色 (32) <p>コントラストをはっきりと！</p> <ul style="list-style-type: none"> • 文字サイズ、色 (48) 	<p>明るい背景に対しては暗い文字がよく見えます。</p> <p>●「背景色と文字色とのコントラストをはっきりつける」ことを覚えておいてください。</p> <p>微妙なコントラストの違いは、パソコン画面ではきれいに見えます。</p> <p>しかし、プロジェクターで映し出してみると見えにくいということはよくありますので、十分注意してください。</p> <p>●</p>

ス ラ イ ド 16	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意 テンプレートの利用</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教材用スライドには使用しない！ – 集中力を欠く原因になりかねない。 • 利用する場合は、最初に決定！ – 後で適用すると、配置やフォントが変わる。 	<p>プレゼンテーションソフトには、様々な背景模様が用意されています。</p> <p>テンプレートといいますが、利用はお勧めできません。特に、教材用スライドには使用しないでください。</p> <p>児童(生徒)の集中力を欠く原因になりかねません。ただし、どうしても利用したい場合は、スライドを作成する最初に決定しておく必要があります。</p> <p>後で適用すると、配置やフォントの設定が変わってしまいます。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 17		<p>テンプレートを使用した例です。</p> <p>文字色やフォントは、テンプレートによって自動的に決定されます。</p> <p>コントラストが悪く、文字が見えにくいです。</p> <p>何より、児童(生徒)はダルマしか見ていません。</p> <p>●このようなテンプレートは不適切です。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 18		<p>こちらはどうぞでしょう。</p> <p>試験の概要という内容ですので、学校向けテンプレートを適用しています。</p> <p>コントラストはよく、勉強という雰囲気が出ていますが、児童(生徒)は本に気を取られてしまいます。</p> <p>●このようなテンプレートも不適切です。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 19	<p>試験の概要</p> <ul style="list-style-type: none"> ▶ 求められる人物像 <ul style="list-style-type: none"> ◦ 積極性、誠実性、協調性 ▶ 面接試験のねらい <ul style="list-style-type: none"> ◦ 最大のポイントは「やる気」 	<p>これぐらいシンプルだったら、許容範囲かもしれません。</p> <p>●</p> <p>ただし、このテンプレートでも、左下の模様は必要のない情報です。</p> <p>児童(生徒)を授業に集中させるためには、どんなテンプレートも使用しない方がよいです。</p> <p>●</p>

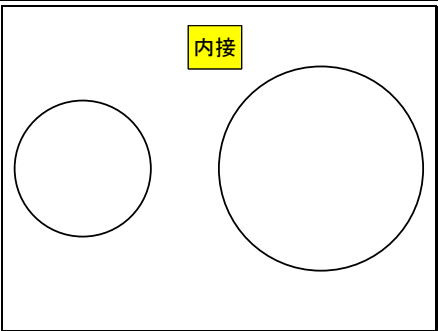
<p>ス ラ イ ド 20</p>	<p>③ 文字サイズ、色、フォントに注意</p> <p>フォント</p> <ul style="list-style-type: none"> • 見えやすさを最優先！ <ul style="list-style-type: none"> － 明朝体よりゴシック体 • MSPゴシックではなく、MSゴシック！ <ul style="list-style-type: none"> － 初期設定では、MSPゴシックになっている。 － MSPゴシックは、縦が揃わない。 	<p>フォントには、明朝体、ゴシック体、行書体、楷書体等、様々な種類があります。</p> <p>選ぶポイントは、見えやすさが最優先です。</p> <p>明朝体よりゴシック体の方がよいです。</p> <p>一般的に、印刷物は明朝体、ディスプレイやプロジェクターで映し出すものはゴシック体が読みやすいです。</p> <p>また、同じゴシック体でも、MSPゴシックではなく、MSゴシックを使用してください。</p> <p>パワーポイントの初期設定では、MSPゴシックが設定されていますが、日本語はMSゴシックに変更した方が読みやすいです。</p> <p>その原因は、MSPゴシックは、文章の縦が揃わないからです。</p> <p>●</p>
<p>ス ラ イ ド 21</p>	<p>フォント(MS Pゴシック)</p> <p>よいプレゼンテーションするためには、伝える作業であるプレゼンテーションの重要性を認識し、問題意識を持って十分な準備を行い、心を込めて伝えることが大切である。</p> <p>21</p>	<p>こちらは、MSPゴシックを設定して書いた文章です。</p> <p>●空白、●読点の幅サイズが、他の文字と違います。</p> <p>●そのため、各行の長さが違い、●途中の文字も縦が揃っていません。</p> <p>MSPゴシックのPはプロポーショナルを意味し、その他のフォントでも、Pが付いたフォントは文字によって横サイズが違うため、このように縦が揃わない文章になってしまいます。</p> <p>●</p>
<p>ス ラ イ ド 22</p>	<p>フォント (MS ゴシック)</p> <p>よいプレゼンテーションするためには、伝える作業であるプレゼンテーションの重要性を認識し、問題意識を持って十分な準備を行い、心を込めて伝えることが大切である。</p> <p>22</p>	<p>文字フォントを、MSゴシックに変更します。</p> <p>そうすると、●空白、●読点の横サイズが均一化されます。</p> <p>その結果、●行末が揃い、●途中の文字も揃います。</p> <p>日本語は、原稿用紙で書いたように、縦横が揃った文章がきれいで、読みやすいです。</p> <p>「フォントはゴシック体」、そして「プロポーショナルフォントは使用しない」ということを覚えておいてください。</p> <p>●</p>

ス ラ イ ド 23	<p>④ 効果的なアニメーション</p> <p>文字は動かさない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 内容よりも動きに目を奪われる。 • 意味のない動きは、理解の妨げになる。 • 「アピール」や「フェード」が望ましい。 	<p>4点目の留意点、効果的なアニメーションについてです。</p> <p>プレゼンテーションソフトを利用してスライドを作る最大の魅力は、文字や図等の出し方に変化を付けることができることです。</p> <p>アニメーションといいます。</p> <p>しかし、アニメーションは多用すると、逆に目障りなものになってしまいます。</p> <p>特に、文字にアニメーションを付ける時には注意が必要です。</p> <p>文字を動かすと、内容よりも動きに目を奪われます。</p> <p>意味のない動きは、理解の妨げになります。</p> <p>文字には、アピールやフェードというアニメーションが望ましいです。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 24	<p>文字は動かさない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育重点施策 <ul style="list-style-type: none"> －教職員の資質・能力の向上 －確かな学力の定着と向上 －生徒指導の徹底と健全育成 －特色ある学校づくり －特別支援教育の推進 	<p>例えば、「教育重点施策」を説明するためのスライドがあります。</p> <p>この文字にアニメーションを付けてみます。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 25	<p>文字は動かさない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育重点施策 <ul style="list-style-type: none"> －教職員の資質・能力の向上 －確かな学力の定着と向上 －生徒指導の徹底と健全育成 －特色ある学校づくり －特別支援教育の推進 	<p>これは、スライドインを設定した例です。</p> <p>教育重点施策には、次のようなものがあります。</p> <p>●（×が出るまで待つ）</p> <p>文字を動かすと、読みづらく、目が疲れます。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 26	<p>文字は動かさない</p> <ul style="list-style-type: none"> • 教育重点施策 <ul style="list-style-type: none"> －教職員の資質・能力の向上 －確かな学力の定着と向上 －生徒指導の徹底と健全育成 －特色ある学校づくり －特別支援教育の推進 	<p>こちらも、スライドインを設定した例です。</p> <p>●（×が出るまで待つ）</p> <p>左から出てきても、下から出てきても同じです。</p> <p>このようなスライドが繰り返されると、大変ストレスになります。</p> <p>●</p>

ス ラ イ ド 27		<p>こちらは、フェードを設定した例です。</p> <p>●(○が出るまで待つ)</p> <p>このように、文字を後出する場合は、その場で表示させた方が、読みやすく、ストレスにならず、理解しやすいです。</p> <p>「読ませたい文字は、動かさない」ということを覚えておいてください。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 28	<p>④ 効果的なアニメーション</p> <p>文字を強調させるための工夫</p> <ul style="list-style-type: none"> アンダーライン (アニメーション：ワイプ) 囲み線 (アニメーション：ホイール) 文字色の変化 	<p>授業の中で出てくる重要語句は覚えさせたい言葉です。文字は、できるだけ長い時間表示させた方が記憶に残ります。</p> <p>文字を動かさずに強調する方法は、いくつかあります。</p> <p>アンダーラインを引く。</p> <p>囲み線を入れる。</p> <p>文字色を変化させる。</p> <p>普段の板書で行っている方法です。</p> <p>文字はあらかじめ表示しておいて、注目させたい文字に変化を加える方法が効果的です。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 29	<p>文字強調の例</p> <p><スライドの作り方></p> <ul style="list-style-type: none"> 文字サイズ、色、フォント シンプルな効果 フレーズ化、図解化 	<p>文字強調の例です。</p> <p>この「スライドの作り方」の中で、「フレーズ化」という文字を強調したい場合、</p> <p>●アンダーラインを引く。</p> <p>ワイプというアニメーションです。</p> <p>●囲み線を入れる。</p> <p>ホイールというアニメーションです。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 30	<p>文字強調の例</p> <p><スライドの作り方></p> <ul style="list-style-type: none"> 文字サイズ、色、フォント シンプルな効果 フレーズ化、図解化 	<p>文字の色を変化させる。</p> <p>変わったことはせずに、日常的に行っている方法が、最も効果的な強調方法だということです。</p> <p>●</p>

ス ラ イ ド 31	<p>④ 効果的なアニメーション</p> <p>図や画像を効果的に利用</p> <ul style="list-style-type: none"> • 答えを隠しておいて後でめくる。 (アニメーション:ワイプ) • 答えた順番で動作させる。 (開始のタイミングの設定) 	<p>また、図や画像を効果的に活用すると、考えさせるスライドを作成することができます。</p> <p>その一つにもんたメソッドという方法があります。</p> <p>答えを隠しておいて後でめくる。</p> <p>ワイプというアニメーションを設定すればできます。</p> <p>さらに、答える個所が複数ある場合に、児童生徒が答えた順番でアニメーションを動作させる方法があります。</p> <p>開始のタイミングを設定すればできます。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 32	<p>三人の武将</p> 	<p>これは、織田信長、豊臣秀吉、徳川家康の写真です。それぞれの名前を、長方形の図形で隠しています。</p> <p>この長方形にワイプというアニメーションを付けると、●●●付せんをめくるようにして答えを表示することができます。</p> <p>通常、アニメーションは、クリックすると順番に動作が開始します。</p> <p>しかし、授業では、児童(生徒)が分かった武将から答えを表示したい場合もありますが、このままでは、織田信長からしか長方形をめくることができません。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 33	<p>三人の武将</p> <p>答えた順に動作させる</p> 	<p>そこで、各長方形に付けたアニメーションの開始のタイミングを変更します。</p> <p>そうすると、豊臣秀吉をめくりたい時は、②の長方形にマウスを持っていき●クリックすればめくることができます。</p> <p>徳川家康の時は、③の長方形を●クリックし、織田信長の時は①を●クリックします。</p> <p>このように、図形をクリックすれば動作を開始するアニメーションは、教材には有効です。</p> <p>●</p>
ス ラ イ ド 34	<p>デジタルコンテンツの作成例</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小さい物の大きさを認識させ、全体像を拡大して見せる。 	<p>その他、デジタルコンテンツの作成例です。</p> <p>●小さい物の大きさを認識させ、全体像を拡大して見せる。</p> <p>●</p>

ス ラ イ ド 35		<p>これは何でしょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 実際の大きさを表示して考えさせ、 ● 拡大表示します。ミジンコです。 ●
ス ラ イ ド 36	<p>デジタルコンテンツの作成例</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小さい物の大きさを認識させ、全体像を拡大して見せる。 • 一部分から、全体像を考えさせる。 	<p>一部分から、全体像を考えさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●
ス ラ イ ド 37	<p>これは何でしょう？</p> 	<p>一部を拡大表示して、全体像を考えさせ、</p> <ul style="list-style-type: none"> ●
ス ラ イ ド 38		<p>全体像を表示させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●
ス ラ イ ド 39	<p>デジタルコンテンツの作成例</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小さい物の大きさを認識させ、全体像を拡大して見せる。 • 一部分から、全体像を考えさせる。 • 図を動かして、視覚的に理解させる。 	<p>図を動かして、視覚的に理解させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●

ス ラ イ ド 40		<p>二つの円がありますが、小さな円を大きな円に近づけます。</p> <p>●円が近付くと、1点で共有する部分ができます。この状態を外接と言います。</p> <p>さらに円を近づけると、●大きい円の内側の1点で共有する部分ができます。この状態を内接と言います。</p> <p>●</p>									
ス ラ イ ド 41	<p>デジタルコンテンツの作成例</p> <ul style="list-style-type: none"> • 小さい物の大きさを認識させ、全体像を拡大して見せる。 • 一部分から、全体像を考えさせる。 • 図を動かして、視覚的に理解させる。 • 問題をクリックすると答えが表示され、個別学習で利用する。 	<p>問題をクリックすると答えが表示され、個別学習でも利用できる。</p> <p>●</p>									
ス ラ イ ド 42	<p>9の段の九九</p> <table border="1"> <tbody> <tr> <td>9×1</td> <td>9×2</td> <td>9×3</td> </tr> <tr> <td>9×4</td> <td>9×5</td> <td>9×6</td> </tr> <tr> <td>9×7</td> <td>9×8</td> <td>9×9</td> </tr> </tbody> </table>	9×1	9×2	9×3	9×4	9×5	9×6	9×7	9×8	9×9	<p>オブジェクトクリックを利用した例です。</p> <p>それぞれの式をクリックすると、答えが表示されます。(くいちがく、くにじゅうはち……●いくつか言いながらクリックする。)</p> <p>再生が終了したら巻き戻すという設定をしており、すぐに答えが隠れるので、反復練習や個別学習に利用できます。</p> <p>●</p>
9×1	9×2	9×3									
9×4	9×5	9×6									
9×7	9×8	9×9									
ス ラ イ ド 43	<p>プレゼンテーション教材作成の基本的な考え方</p> <p>愛媛県総合教育センター 教育開発部 情報教育室</p>	<p>このようなプレゼンテーション教材を、一人が一つ作れば、教員数分の教材ができます。</p> <p>二つ作れば、その倍です。</p> <p>みんなで頑張って作成し、校内で共有し、子どもたちの学びをより充実させていきましょう。</p>									